平成３０年度　学校自己評価システムシート（埼玉県立春日部女子高等学校　）

e02

目指す学校像	高い志を持ち、夢をあきらめない生徒の育成を目指す、伝統ある女子の進学校

重点目標	1　意欲的な学習態度及び学習習慣を身に付けた生徒の育成 2　文武両道を目指し、何事にも全力投球する生徒の育成 3　チャレンジ精神を持ち自らの目標を達成出来る生徒の育成 4　礼儀を基本に高雅な品格と思いやりの心を持った生徒の育成 5　開かれた学校づくりを進め、地域社会及び国際社会に貢献する生徒の育成

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

学校自己評価							学校関係者評価
年度目標					30年度評価（　月　日現在）		実施日　平成　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策（例示）	方策の評価指標（例示）	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 学習面について、学習合宿での学習習慣が定着し、自習室の整備、学習手帳の活用などで、授業以外での学習は増加している。しかし、授業に臨む態度は受け身である。 【課題】 自学自習の習慣づくりに取り組み、日常の学習量の増加を図る。	①「春女手帳」の活用状況。 ②課題以外の自発的学習量の増加。	①「春女手帳」の活用状況の把握。 ②授業の予習復習の増加、スタディーサプリの活用。	①手帳を活用しての学習時間の増加。計画的な生活が送れたか。 ②生徒の学力向上。				
		③授業改善に取り組む。	③主体的、対話的、深い学びの授業を実践。 ＩＣＴ等を使用した指導法の実践。	③模擬試験の学力の推移。 ④生徒による授業評価の満足度の増加。				
2	【現状】 勉強に励みながら、部活動や学校行事等を効率的に取り組んでいる生徒が多い。 【課題】 学習面と部活動、学校行事等とのさらに高い次元での両立を図る。	①部活動の加入率と継続状況。 ②学校生活の満足度。 ③新たな学習時間の発掘。	①「部活動ガイド」を利用し、顧問によるきめ細かい指導の実施。 ②学習、部活動、学校行事等へ全力で取り組めたか。 ③「春女ノート」を活用し、隙間時間を有効に活用させる。	①　部活動の加入率、継続率を高い水準で維持できたか。 ②　学校生活の満足度 ③隙間時間を有効的に活用し、学習量が増えたか。スマホの使用量が減ったか。				
3	【現状】 大学進学等について、一般受験でチャレンジする生徒が増加している。 【課題】 進路実現に向けた、３年間を見通したプランの作成とチャレンジする生徒の意識の維持を図る。	①高い志を育成しているか。 ②センター試験の受験者数。	①生徒アンケートや面談を通して、生徒の進路希望を的確に把握し、進路行事の充実を図る。 ②国公立の魅力を発信し、５教科７科目受験を促す。	①生徒の進路希望を把握し、的確な対応ができたか。 ②各学年の国公立志望者数は増加したか。センター受験者の前年より増加したか。				
		③進路スケジュールを可視化する。 ④一般受験者数。	③進路指導部、学年の連携をさらに促進し、進路行事の充実を図る。 ④進学補習や進学模試に積極的に参加させる。	③これまでの実践を踏まえての進路スケジュールが実現できたか。 ④一般受験率が８０％を超えたか。				
4	【現状】 礼儀の基本である挨拶が出来ない生徒がまだ見受けられる。清掃活動はよく行っている。 【課題】 挨拶指導の充実を図る。積極的な生徒も多いが、問題を抱える生徒もいる。	①美しい学校（挨拶、清掃、身だしなみ）へ指導を徹底する。 ②問題を抱える生徒に対して、他機関との連携ができたか。	①学校生活のあらゆる場面を通して、きめ細かい指導に取り組む。校外においても品格ある行動を促す。 ②生徒との面談、カウンセリング等を活用して、生徒の様子を把握する。	①挨拶のできる生徒が増えたか。校内はきれいになったか。身だしなみは整っているか。 外部からの評価。 ②配慮すべき生徒へ適切な対応ができたか。				
5	【現状】 本校の取組について、ホームページや学校説明会等で発信し、外部の理解が深まっている。 【課題】 地域や国際社会で活躍する意識の生徒への動機づけは、まだやるべきことが多い。	①ホームページを通じた情報発信。	①情報が伝わりやすいように、ホームページのデザインを工夫する。	①ホームページのアクセス数が増加したか。				
		②本校志願者の質、量の充実、増加。	②生徒募集に関する行事の中身の検討（在校生やPTAの積極的な参加、体験授業、テーマ別説明会）する。	②第１回の中学生の進路希望調査で、1.2倍を超えたか。				
		③国際理解教育の充実を図る。 ④地域との連携する行事を増やす。	③海外研修、外部講師、留学生の受け入れ等、国際教育の取組を積極的に発信する。 ④奉仕活動を奨励する。 総合的な学習の時間を活用して、地域との連携を行う。	③外国語科の入試倍率が、2.0倍を超えたか。 ④地域との連携行事の実施状況。				